様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　４月　２５日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2008～2011
課題番号：20710200
研究課題名（和文）　日英の賃金/収入のジェンダー統計分析―個人と世帯の関係を考慮して―
研究課題名（英文）　Gender Wage / Income Differentials in Britain and Japan: Bridging individuals and households
研究代表者
杉橋　やよい　（SUGIHASHI　YAYOI）
金沢大学・経済学経営学系・准教授
研究者番号：60377009

研究分野：ジェンダー統計研究
科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー
キーワード：ジェンダー統計、収入、男女間賃金格差、日英比較、個人と世帯

１．研究計画の概要

本研究は、ジェンダー視点から、収入の個人と世帯、そしてその関係性を検討する。個人レベルにおいて労働市場で発現する男女間の賃金の格差･差別を検討し、世帯レベルでは世帯単位にみた男女の収入を検討する。その際、ジェンダー統計の視角を基礎にする。

具体的には４つの課題がある。(1)男女間賃金格差･差別について、要因分解手法の限界を配慮して、日英比較を行うこと。(2)片稼ぎ世帯、妻正規雇用型共稼ぎ世帯、妻非正規雇用型共稼ぎ世帯の収入構造を日英比較すること。(3)それぞれの世帯について世帯収入階級別夫妻間の収入比率を検討し、さらに夫間、妻間、世帯間の収入格差とそれらの関係を分析し、日英比較することである。(4)さらに、賃金/収入の「男性稼ぎ主」型の程度と生活できる程度かに注目しながら、制度や政策を含めてイギリスとの比較を行い、日本の諸制度･政策を考察する。

２．研究の進捗状況

上記の課題すべて､特に(1)～(3)の検討を進めている。(1)賃金格差の要因分解手法について、先行研究を踏まえ、ジェンダー統計学の視角から再検討し、その内在的限界を明らかにした。限界には、①「格差」と「差別」の大きさは、利用する説明変数によって変化し、②差別の数量化は過小評価につながる可能性があること、③日本で見られる変数別要因分析には問題があること、を指摘した。

(2)片稼ぎ世帯、共稼ぎ（妻フルタイム、妻パート）世帯に分けた収入構造については、日本の全国消費実態調査の個票データ、イギリスの *Individual Income* を利用して、日英比較を試みた。さらにイギリスの Expenditure and Food Survey（EFS）の個票データを用いて、家族類型別などの分析を継続している。

(3)ここでも上記(2)で示したデータを利用して、世帯収入階級別に夫妻間の収入比率などを検討した。労働市場での男女間賃金格差が、世帯内での夫妻の収入の分かち合いに大きく影響を及ぼしており、労働市場および世帯においてジェンダー平等は、日本よりイギリスで進んでいること、を確認した。EFS、さらに Family Resource Survey の個票データを用いて、さらなる分析をする予定である。

(4)イギリスの低所得世帯に着目して、社会保障給付と捕捉率について､EFS および FRS を用いて共同で分析を進めている。さらに、イギリスの男女間賃金格差や低所得に対応した政策について検討を進める予定である。

(5)本研究の基礎となるジェンダー統計活動・研究では、労働条件および家計に関する統計の検討、ジェンダーに関する総合指数の検討、そして 2010 年の国連を中心とするジェンダー統計に関するグローバル・フォーラムやジェンダー統計専門家会議へのオブザーバーとして参加して、ジェンダー統計に関する国際的交流を進め、研究に活かしている。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

各課題について若干の不足はあるが、当初の目的に沿って取組んでいる。(1)男女間賃金格差の検討では、具体的な日英比較にまで手が付けられていないが、分析手法である要因

分解手法について、再検討することでより正確な分析結果を導き出すことが期待できる。(2)収入構造の日英比較は、日英のミクロデータを使い、先行研究の弱点・不足点を克服しているが、さらに分析対象を絞り、理論的、社会的背景についての検討を深める必要がある。(3)同じことが、夫妻の収入比率についても言える。(4)諸制度および政策との関係についての検討は不足がちであり、これは今年度、2011 年度の主たる課題となる。

４．今後の研究の推進方策

今年度は、上記の(2)と(3)を補強しながら、特に(4)に集中的に取り組む。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 米澤香･安井浩子･杉橋やよい･金子治平，統計データでみる世帯別所得分，『家計所得の国際比較研究』(Sinfonica 研究叢書)，16 巻，(2009)，pp. 93-111，査読無
② 杉橋やよい，男女間賃金格差の要因分解手法の意義と内在的限界，法政大学『経済志林』第 76 巻第 4 号，(2009)，pp.53-79，査読無

〔学会発表〕（計５件）

① 杉橋やよい，ジェンダー統計に関わる政府指針の検討―統計基本計画と第３次男女共同参画基本計画(案)を中心に―，第 54 回経済統計学会全国研究総会，2010 年 9 月 17 日，大分大学（大分）
② 米澤香・安井浩子・杉橋やよい・金子治平，イギリスにおける社会保障給付の捕捉率推計方法についての検討，第 54 回経済統計学会全国研究総会，2010 年 9 月 17 日，大分大学（大分）
③ 杉橋やよい，ESCAP におけるジェンダー統計活動の到達点と今後の課題，第 53 回経済統計学会全国研究総会，2009 年 9 月 6 日，北海学園大学（北海道）
④ 米澤香・安井浩子・杉橋やよい・金子治平，イギリスの EFS マイクロ・データと税・社会保障制度，第 53 回経済統計学会全国研究総会，2009 年 9 月 5 日，北海学園大学（北海道）
⑤ Sugihashi, Y., A virtue and inherent limitations in the Blinder-Oaxaca Decomposition Technique, The 18th International Association for Feminist Economics Conference, 2009.6.28, Simmons College (USA)

〔図書〕（計４件）

① 長野ひろ子・松本悠子編著，赤石書店，『ジェンダー史叢書 6　経済と消費社会』2009 年（杉橋やよい共著，「ジェンダー予算とは何か」pp. 304-305 を担当）
② 杉森晃一･木村和範･金子治平･上藤一郎編著，北海道大学図書刊行会，『社会の変化と統計情報』2009 年（杉橋やよい共著，「ジェンダー統計の現状と課題―日本を中心に―」pp. 151-170 を担当）
③ 独立行政法人女性教育会館編著，ぎょうせい，『男女共同参画統計データブック 2009―日本の女性と男性―』2009 年，(杉橋やよい「労働条件」pp. 49-64 執筆)
④ 伊藤セツ・川島美保編著，光生館，『三訂 消費生活経済学』2008 年，(杉橋やよい「単身家計･共稼ぎ家計と女性の経済力」pp. 63-76 執筆)

〔その他〕

① 新聞掲載。朝日新聞　平成 22 年 11 月 26 日掲載
② 新聞掲載。読売新聞　平成 22 年４月５日掲載